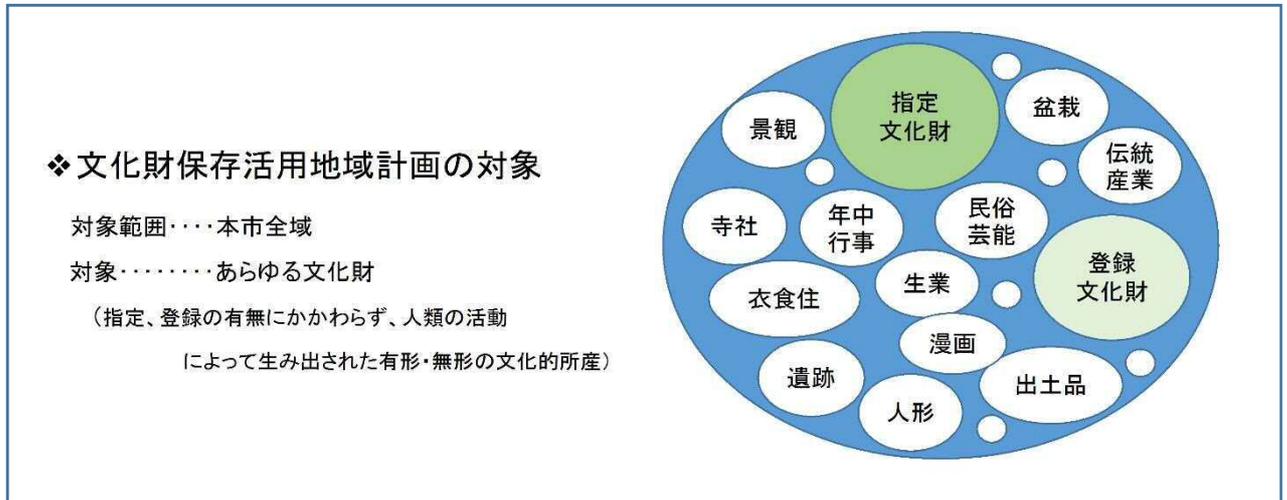


2 協議事項

(1) 文化財の保存と活用に関する将来像について

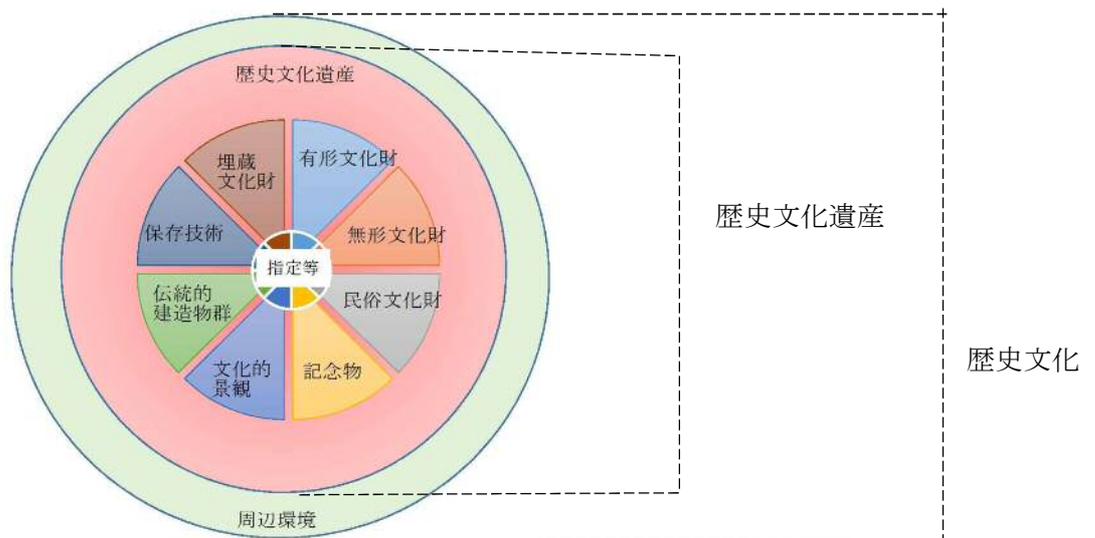
ア 計画対象について

令和3年度第1回資料より



対象範囲……本市全域

対象……文化財保護法に示された6類型の文化財と文化財の保存技術、埋蔵文化財に加え、保護法の6類型に含まれない盆栽などの伝統産業や産物、ウナギなどの食文化や伝承など人々の活動の結果生みだされたもの・ことを「歴史文化遺産」とする。



なお、「歴史文化遺産」と自然環境や人々の活動など歴史文化遺産の周辺環境によって生み出されたものを「歴史文化」とする。

イ 歴史文化の特徴

①大宮台地と水が織りなす歴史文化

さいたま市は、大宮台地のほぼ末端部に位置し、台地と低地の境目にあたる。大宮台地中央には、最大の溺れ谷である見沼低地があり、周辺には旧石器時代からの遺跡や寺社が多くみられる。近世には灌漑用水や新田として利用された。また、低地は主に、荒川の堆積作用等によってできたものであり、自然堤防が発達している。河川の氾濫源となった低湿地には動植物が多く生息し、荒川河川敷にはサクラソウ自生地が点在していた。古墳や古代仏など、荒川流域に多く見られることも大きな特徴である。

②住みやすいまち「さいたま」 ～3万年前から始まる歴史文化

さいたまには、約3万年前とみられる旧石器時代の生活の痕跡が台地の縁の部分で確認できる。縄文時代以降には、台地の縁の周りに定住の跡が見られ、弥生時代後期以降、自然堤防上にも遺跡が見られるようになる。自然堤防に隣接する低湿地は水に恵まれた水田として利用された。

③武士の興亡 ～動乱の世に生まれた歴史文化

中世のさいたまは、鎌倉幕府の成立・滅亡、後北条氏の進出、岩槻城の落城など、大きな戦乱の中に巻き込まれた。武蔵武士の活躍や岩付城の築城、太田氏の支配下の中、板石塔婆と呼ばれる供養塔や融通念仏が普及する。また、鎌倉街道の整備や「市」が成立した。

④江戸を支えた歴史文化

江戸で幕府を開いたことで、現在につながる基盤が生まれた。岩槻城には、譜代大名が配置され、利根川や荒川の瀬替え等の河川改修、新田開発、街道整備など、政治、経済、文化などあらゆる面において、人々の暮らしに影響を与えた。米や野菜のほか、植木や柿渋等、江戸の食糧や文化を支える地としても重要であった。

⑤県都さいたまの歴史文化

廃藩置県により、埼玉県が生まれ、市内に県庁が設置された。そのことにより、裁判所や郡役所、鉄道の敷設等、県都としての整備が進んだ。師範学校や医学校など各種学校が開校し「文教都市」として発展した。また、関東大震災後、東京を離れた人々により、大宮台地上に「浦和画家」「盆栽村」なども生まれた。

⑥陸の道・水の道・鉄の道 ～道が育む歴史文化

原始・古代より、交流・交易が始まっていた。それは、陸の道であり、水の道であった。市内には、市や宿場、河岸が発達し、人々の移動に伴い、様々なものや文化が持ち込まれた。近代に鉄道が敷設され、大宮で線路が分岐されたことにより、「鉄道の町」として大きく飛躍した。

⑦祈りと祭りの歴史文化

初詣で賑わう氷川神社を始め、市内には数多くの神社が存在する。そこでは、祭礼が行われ、五穀豊穡を祈る神輿渡御や獅子舞、子どもの成長を願う土俵入りが行われる。神輿渡御には、囃子が継承され、市内では西部を中心に継承されている。また、坂東三十三観音霊場の慈恩寺や、観音や不動や薬師の札所も多く残る。

ウ アンケート結果

(ア) 子どもの提案制度

調査期間 令和4年6月15日から7月15日

調査対象 市内在学の中学生

調査内容 大切に思う地域の宝は？「お宝を」未来につなげていくには？

回答 87件（86人と1グループ）

(イ) さいたま市の歴史的・文化的な遺産に関するアンケート

調査期間 令和4年10月21日から11月13日

調査対象 市内の公民館主催事業受講者

調査内容 市民の動向、意識の把握

回答 847件（60館中47館回答）

(ウ) アンケート結果から

a お宝、残したいもの（延べ469件）

見沼周辺（見沼田んぼ、代用水、桜、見沼通船堀、見沼及び周辺の風景など）

氷川神社周辺（氷川神社、大宮公園、参道、大湯祭・十日まちなど）

田島ヶ原サクラソウ自生地、岩槻城址公園、寿能城跡、別所沼公園、調神社

太宰治が『人間失格』を書いた場所（大宮区）

市内各所の桜並木、富士山に見える風景、農家の屋敷林、ケヤキ並木

食文化では、ウナギ、饅頭、うどん、ヨーロッパ野菜

b 継承するには？（延べ331件）

- ・情報発信
- ・イベントや祭りを開催し、体験や見学をする
- ・学校行事や授業で学ぶ、体験する
- ・ボランティアを活用する
- ・資金を集める
- ・後継者を育成する
- ・周辺環境を整備する、連携する
- ・グッズやキャラクターを作る
- ・「郷土カルタ」
- ・さいたま市の良いところを伝え合う

エ 歴史文化遺産の保存と活用の課題・方針

【課題】

把握・調査に関する課題

- ・ 指定文化財の現状確認が必要
- ・ 調査済み及び未実施の歴史文化遺産の詳細調査が必要
- ・ 調査記録・データ作成が必要

保存に関する課題

- ・ 日常的な維持管理が困難な歴史文化遺産がある
- ・ 建造物等の修理計画が必要
- ・ 無形民俗文化財の後継者育成が必要
- ・ 文化財の保管場所が必要

活用に関する課題

- ・ 歴史文化遺産の周知方法の検討が必要
- ・ 歴史文化遺産に親しむ環境整備が必要
- ・ 歴史文化遺産を活用した教育、まちづくり、観光への取組が必要

人材確保・育成に関する課題

- ・ ボランティアの育成
- ・ 学校との連携
- ・ 多様な主体による保存活用の仕組みの構築が必要

防災・防犯体制に関する課題

- ・ 自然災害や火災・盗難などによる文化財被害を低減化する体制の構築が必要
- ・ 防災・防犯のネットワークの確立が必要

【4つの方針】

さがす

- ・ 指定文化財の現況調査を実施する
- ・ 調査済み及び未実施の歴史文化遺産の詳細調査を計画的に実施する
- ・ 調査記録・データ作成を実施し、公開する

いかす

- ・ 歴史文化遺産を市民に伝える取組を行う（講座、学校との連携、SNS、冊子、説明板設置等）
- ・ 歴史文化遺産を活用したイベント等公開の機会を増やす
- ・ 国指定史跡の通船堀や真福寺の整備を行う

たすけあう

- ・ 人的、資金の援助など応援体制を整える
- ・ 警察や消防とも連携し、歴史文化遺産の散逸を防ぐための防災・防犯体制を構築する
- ・ 所有者間の情報共有の場を提供する
- ・ 地域住民や企業など、多様な主体が保存・活用に参画する仕組みを整える

まもる

- ・ 国指定文化財の保存活用計画を作成する。
- ・ 歴史文化遺産の修理計画を作成する
- ・ 修理等へ支援
- ・ 文化財指定、登録等の推進
- ・ 埋蔵文化財調査の実施



オ 文化財保存活用区域（氷川神社・大宮宿区域）の保存と活用について

（ア） 概要

本区域は、古代より氷川神社を中心に、また、近世においては中山道大宮宿の宿場町として発展した区域である。近代以降は「鉄道のまち」「商業のまち」として発展をしてきた。県内最古の県営公園である「大宮公園」には文豪が訪れ、料亭文化が生まれたり、野球場やサッカー場、県立博物館の施設が建設されるなど、また、関東大震災後「大宮盆栽村」が誕生したり、交通・交易・文化発信の拠点でもある。

（イ） 歴史文化の特徴

- ・大宮台地と水が織りなす歴史文化
- ・住みやすいまち「さいたま」～3万年前から始まる歴史文化
- ・江戸を支えた歴史文化
- ・県都埼玉の歴史文化
- ・陸の道・水の道・鉄の道～道が育む歴史文化
- ・祈りと祭の歴史文化

（ウ） 課題

- ・氷川神社を始め、区域の歴史文化遺産の説明板や案内板が老朽化又は未設置
- ・指定文化財「氷川参道の並木」の継承
- ・大宮駅開設以降、都市化が急速に進み、かつての宿場町としての面影が残っていない
- ・鉄道遺跡や盆栽関連遺産など区域内の歴史文化遺産の調査の不足
- ・区域に残る多様な文化財の一体的な保存・活用

（エ） 方針

- ・さがす
計画的な歴史文化遺産の調査の実施
- ・いかす
説明板や案内板の修繕、設置
講座やイベントの実施
- ・たすけあう
多様な主体との連携
- ・まもる
保存・活用の在り方を検討する

（オ） 措置

- ・説明板や案内板のデザインの統一化と計画的な修繕、設置
- ・「氷川参道の並木」の保存活用の在り方の検討
- ・VRやAR等を活用した大宮宿の復元の検討
- ・計画的な歴史文化遺産の調査の実施
- ・多様な主体との保存・活用の体制の構築
- ・講座やイベント等「知る」機会を増やす